

第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会会長候補
所信

稲垣 暢也
京都大学大学院医学研究科
糖尿病・栄養内科学

最近の科学技術の革新は糖尿病の分野においても飛躍的な進歩をもたらし、これまでにさまざまな新しい糖尿病治療薬や医療機器が開発されてきました。また、糖尿病の疫学や治療に関するエビデンスも蓄積しつつあります。しかし一方で、わが国の糖尿病患者数は増え続け、合併症が減少しないなど、糖尿病の予防や治療は未だに満足できるものではありません。私はこれまでに SU 薬の作用機構の解明など、特に膵β細胞やインスリン分泌の領域で活動してまいりました。もし諸先生方のご支援を得て第 59 回日本糖尿病学会年次学術集会をお世話させていただけるのであれば、『学際的な研究に基づく糖尿病治療の挑戦』をテーマに、最新の研究成果を会員の皆様と共有するとともに、現在糖尿病の予防や治療において解決すべき課題を浮き彫りにし、それを克服するための方策について、さまざまな角度から多職種により議論したいと考えています。

諸先生方の温かいご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。